



Title	日韓社会保障の経済分析
Author(s)	金, 領佑
Citation	大阪大学, 2002, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/43300
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	金 領 佑
博士の専攻分野の名称	博 士 (国際公共政策)
学 位 記 番 号	第 1 7 1 6 7 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 14 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 国際公共政策研究科比較公共政策専攻
学 位 論 文 名	日韓社会保障の経済分析
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 跡田 直澄 (副査) 教 授 辻 正次 助教授 山内 直人 助教授 松繁 寿和

論 文 内 容 の 要 旨

近年まで日本と韓国は、所得格差を小さく保ちながら経済成長を果たしてきた。しかし、最近所得分配の不平等化が進行しているという指摘がある。実際に、社会保障は所得格差の改善に大きく寄与をしているが、近年の経済成長率の低下や少子高齢化（韓国では高齢化）の急速な進行により、現行システムは見直しを迫られている。今後増加していく福祉欲求を充足させると同時に、財政の健全化も求められており、経済効率を阻害しない最適な資源配分を考えなければならない。そして新しい社会保障制度を設計していくためには、現在のシステムを総体的に評価することが必要となる。

本論文の目的は、日韓の社会保障政策を主に効率性、公平性および有効性の観点から経験的に検証することにある。福祉の計測は人々の存在と生活の質を評価するしかなく、その評価には準拠集団が必要となる。社会的、文化的に多くの共通点を持つ日韓の社会保障制度は発展の歴史は異なるものの、どのような政策的選択肢があるかを考える上で、比較の対象として有益であるだけでなく、国際的な制約が課されることにより今後収斂していくことも考えられる。現時点においても、コストの効率性、分配的正義およびサービス提供の有効性などに関し同様の課題を抱えている。これらが存在するその制度的問題点は、制度の不適切な設計と運用によると考えられる。現行システムの不備はサービスの受け手における満足度の低下や不安感へと結びつき、社会保障本来の目的を達成する障害となっている。これらの克服を通し人々が安心して暮らせる21世紀型のアジア的福祉モデルも明らかになっていくことであろう。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、日韓の社会保障制度の実態分析を踏まえて、その有効性と効率性を評価し、両国を含む東アジアにおける望ましい福祉社会建設に向けた改革モデルを検討したものである。

日韓の社会保障制度は異なる発展の歴史をもつものの、社会的・文化的には多くの共通点を持ち、政策的選択肢を考える上では両者の比較分析を試みることは有効である。本論文は、こうした考え方に立って、日韓の年金・医療・福祉の各政策を定性的かつ定量的に分析した。特に、第3章は、韓国の医療・年金制度の現状と課題を紹介するとともに、その経済的影響として貯蓄との関連をも分析したものであり、海外社会保障の研究として高く評価されている。

また、第4章では、日本の措置費という制度のもとでの老人福祉政策の非効率性をフロンティア分析により定量的に明らかにするとともに、その原因分析をも試みた。

社会保障の日韓比較としては、公的扶助、児童福祉、社会福祉が言及されていない点で、やや物足りなさも感じられるが、予算的には社会保険と老人福祉で80%近くに達しているから、政策論的にはこの二つの側面への分析で十分であるし、また個々の論文の分析レベルも十分に高い。以上の点から、博士（国際公共政策）を授与する条件を十分に満たしていると判断した。